

柏樹

題字
 会長 浅香正男
 川口市退職校長会
 会報 第9号
 平成26年6月1日

一日一生 今を大切に 生きる



顧問 白根栄一

新年度を迎えて
 まず各行事に
 参加され、余生
 を楽しく有意義
 に過ごされて居

られることは、まことに素晴らしい事と存じます。しかしその半面、会報の会員近況を見ますと、身体の不自由を訴えている記事が目につきます。80前後の歳に多く見受けられます。真に辛い事です。卒寿を越した我が身も同様、腰痛、膝痛等でもう十数年にもなります。幾許の余命を、安心立命の境地で過ごす事が出来たらと願って居る昨今です。幸いに私も行事の一つである「俳句の集い」に、昭和57年の発足以来会員として席を置き今日に至る迄、三十有余年の間、会員の皆さんと親睦を兼ね、熱心に研鑽を重ねて来られたことを、

何よりの楽しみと思ひ、この組織があったからこそ感謝して居る一人であります。

また、その他の各部の皆さんの活動を会報で読み、熱心で和やかな雰囲気を感じられ、若かったらあれもこれもと参加して楽しめたのにと、老いたる我を苦笑するのみです。

尚、この柏樹会の今後の各行事の諸活動を通じて学校教育への適切な提言等を行い貢献を計ると共に、更に視野を広げて社会との連携を密にして、世のために役立てば何よりのことと願って居る次第です。

私事になりますが、先年市内の小学校の校長先生に頼まれて6年の児童に戦争、シベリア抑留の話をした事がありました。その後話を聞いた感想をまとめた文集を頂きました。子供の心に平和な世界にするためには何をしたらよいかとの問いかけに「一日を大切に、今をしっかり勉強する事」との確かなこたえが文を占めていました。話をして良かったと胸を撫で下したことがありました。

又、時折老人会に呼ばれて、戦時中

の出来事等を語り、老後の生き方を語り合うこともありました。少しでも人のお役に立てばとの思いからです。明日は何が起きるか予知の出来ぬこの世、一生に一度の今日の一日を大切に過ごせたらと、願う昨今であります。

歲月人を待たず

粉川久仁子



原稿依頼から
 半月も経ってしま
 ったのに、一向に、先が見えない。一日一日と月日が流れていく。歲月人を待たず、切みには、書かなければ、

東日本大震災以後、自然災害の恐ろしさとそれに対する援助が叫ばれているが、戦争による（人災による）悲惨さについては、終戦記念日が近づく話題に上る程度である。これが70年近い歳月の流れだと実感させられる。

昭和20年8月1日、国民学校4年生だった私は、新潟県長岡市で、空襲を受けた。山本五十六の出生地ということが、空襲の要因だった。今日から夏休みという日の夜のこと、空襲警報に、ランドセル一つ持ち出す暇もなく夏布

団を頭から被り、土手伝いに山の方へ山の方へと逃げた。爆発音と共に辺り一面火の海。熱くて、川の水に布団を浸し夢中で逃げた。妹は母の背に、弟は父に手を引かれ、何とか悠久山近くの農家にたどり着いた。

翌々日、我が家のあった辺りに行ってみるとすべてが灰になっていた。見つけたのは、七五三の飴のようにねじ曲がった文鎮一つだった。呆然とした。写真が焼けてしまったことが、子ども時代の思い出を全て奪われてしまったようで今でも淋しい。

取りあえず、故郷の広島へ帰る事にした矢先、6日に原爆が落とされ、母方の伯父・伯母・従姉が、亡くなった。そして、終戦。玉音放送を聞きながら、9歳の私は、今後の人生がどうなっていくのか不安でたまらなかつた。

半年ほど、農家の屋根裏部屋で一家5人の生活が始まった。線路伝いに歩いて学校へ通った。（学校だけが、焼けずに残った）ウサギ当番の日、道中ハコベやオオバコなどの草を摘み、学校へ行ってみると先生方は炊き出しの最中、小さな塩むすびを一つ下さった。二期期が始まったが、教室には、半分のの子しか登校して来なかつた。

それから、70年の歲月が経った。一度も会えない友もいる。時代が変わっても二度と戦争を起こしてはならない。

柏樹会総会



平成26年5月11日(日)、川口市退職校長会総会が太陽サパールで百数名の参加のもとに

開催されました。浅香正男会長挨拶・奥ノ木信夫市長・新海今朝巳教育長・栗原喜一郎前退職校長会長・山口和伸市立校長会長の祝辞に続き、議事に入り、事業報告及び計画、決算及び予算とスムーズに進み、閉会となりました。その後、懇親会・祝賀会が開かれ、和気藹々のうちに終了しました。

瑞寶雙光章受章

おめでとうございます



飯高登志夫先生



小林徳之助先生



野本キミ子先生



関根 正先生

来賓挨拶



栗原喜一郎前会長



奥ノ木信夫市長



山口和伸校長会長



新海今朝巳教育長

「ちよつといひ話」

特別支援学級卒業生と乾杯

足助啓子

「乾杯！」「僕はビールがいい」「僕はレモン杯」「僕はウーロン茶」先生、これおいしいよ」二十五、六年前に受け持った特別支援学級の子供たちも、30代後半になっていて、それぞれ作業所や福祉施設などに通所している。

私が特別支援学級の担任をしていた頃は、この子たちの将来はどうなるのだろうか。社会の中で自立して生きていけるのだろうか。10年後、20年後の生活をイメージして、そのために今つけなければいけない力を、どうやって指導していこうか、と悩む日々。

自分のことは、自分でできる大人になってほしい。電車やバスに一人で乗れる大人になってほしい。働く力をつけたい。いつも保護者会ではそんな話をしてきた記憶がある。

この子たちの教育を無我夢中でやっていた時は、こんな日が来るとは夢にも思っていなかった。担任の思いは一方通行。卒業させたら、担任はただの人になるのが特別支援教育。同窓会や結婚式に招かれることもない。ずっとそう思ってきた。そしてそれでいいと思っていた。

退職して一か月が過ぎたころ、ある母親から「先生、定年退職したんですね。先生から教わったお母さんたちがみんなで先生の退職祝いしようということになりました。子供たちも大人になりました。親子一緒に退職祝いします。」と突然の電話。



一人一人、もう立派な大人。背広を着て、ネクタイを締めている子。お父さんと後ろ姿がそっくりになってきた子。女の子は流行りの服を着て。冒頭の会話が行き交う退職祝い。学校で開催してくれた大きな退官祝いとは比べられるものではないが、特別支援学級で、毎日格闘していた子供たちと、まさか一緒にお酒を飲める日が来るなんて。

様々な思いが走馬灯のように浮かぶ。笑っている一人一人の顔が滲んで見えた。

今現在も、学校教育の中で様々な課題を抱え、悩み苦しんでいる子供たちや先生方、保護者の方々の少しでも力になれたらと、微力ながらお手伝いしている。また、大人になった卒業生と「乾杯！」ができる日を楽しみにしながら。

—ちよつといひ話—

新任教員 『応援団』

原富美夫

若手教員の育成という私のライフワークの一つ、初任者拠点校指導教員の仕事をさせていただきました。

五人の初任者を担当し、毎日、違う学校に通い、生きがい（行きがい）居がい、やりがいを感じました。

五人の中の一人、A先生は礼儀正しい好青年でした。確実に授業力をつけ、児童とのコミュニケーションも日々上達し、すばらしい学級づくりをされました。

指導教員として、特にかかわったことは、学ぶ環境作りです。そして、生徒指導の基本は、きちんとわかる授業を行うことです。『履物を揃えることは、学校生活の第一歩』『廊下は教室の鏡』『教室は児童の鏡』『児童は先生の鏡』であることを説明し、実践してもらいました。おかげさまで廊下はピカピカで落ちている物なし。教室の中は、掲示物、ロッカーの中、本箱、流し、黒板等の整理整頓、美化が行き届き、気持ちのよい学習環境でした。また、当たり前のことを当たり前に行う教育、元県教育委員長・石川先生が、『凡事徹底』という言葉で教師と

してあるべき姿を示唆いただきました。それ以来、私の座右の銘として、若い先生の指導に役立ててきました。

A先生は、これを実践し、習慣化して大変素晴らしい学級づくりをされました。一学期末の授業参観、学級懇談会の席で、「A先生は、きれいな好きなのですね。家でも、みんなの履物を揃えたり、進んで部屋も片付けるようになった」と、感謝の言葉を言われたそうです。

そのA先生と最後の研修日、児童が私を迎えに職員室に嬉しそうに入ってきました。教室に入ると、子供たちは、私への感謝を込めた替え歌を歌ってくれました。次は、「宝探し」宝物は先生（私）の良いところや言われて嬉しかった言葉など感謝の気持ちを書いた折り紙でした。最後に心温まる手紙とアルバムをいただきました。

家に帰り、このことを妻に話すと、近くで聴いていた91歳を超える母が見せてほしいと言うので、手紙とアルバムを渡しました。

母は、「あなたがどんな仕事をしてきたか、よく分かりました。あなたは、こういう仕事为天職なのですね」と、言っていて涙ぐんでいました。無事、校長職を全うしたことも、親孝行と人から言われたのに、おまけがついてしまいました。教師冥利に尽きる子供たちからのプレゼント。新任教員に感謝!!

各部の活動から

俳句の集い

柏樹会「俳句の集い」の句集、「柏葉」が創刊されたのは平成6年度のことと、本年度は20周年という回顧の時を得ました。当時の会員欄には、現在もご指導いただいている、白根、国井、中村、土橋各先生方のお名前も見え、発刊のことは白根先生が書かれています。「俳句の集い」の第1回の発足会が昭和57年7月に開かれたという歴史を知り感慨を深めました。

本年度の特筆される活動は、11月の並木公民館文化祭に参加したことと、地域との交流が叫ばれながらもなかなか実践できない実情もあり、「俳句の集い」として積極的に参加しました。会員の作品を短冊にした展示参加のほか、ポップコーン販売（山下・佐藤先生が担当）もするという画期的な出来事で、好評の二日間でした。

会員数は増えて現在18名。年4回の例会への参加者は10名前後ですが、会長の白根先生を中心に楽しみながら日本伝統文化に親しんでいます。会長と新入会員との年齢差が30歳という人生を学べる会でもあります。

俳句をとおしての交流の輪を、さらに進めていきたいと考えています。
(関根要造)

健康教室の活動

健康教室では、十数年前から調理実習やウォーキング等の行事を年2回実施しています。

6月の「調理実習」は川口市食生活改善推進員協議会長の桜井道子氏にご指導頂き8年続いています。毎回大変好評で昨年は16名参加。ピリ辛ジャージャー麺や揚げなすのだし浸し、ししとうとじゃこの金ぴらなどの料理に腕を振るい大変おいしく味わうことができました。

しかし、10月に予定していた「ウォーキング」は新座の平林寺方面を歩く計画でしたが、あいにく台風26号の接近でやむを得ず中止しました。18名も参加希望を頂いておりましたので非常に残念でした。



今年度は6月に「ヘルシー料理」第9回。10月に「土呂」から「新都心」までのウォーキングの予定です。是非、ご参加下さい。
(玉木清一)

視陸旅行

雨にも負けず、石垣山城 見学の小田原親睦の旅

昨年度は、秀吉公が後北条氏を攻めるために築いた石垣山城(一夜城)を中心に小田原方面への旅を実施しました。川口を出発したときは、曇り空でしたが、小田原に着いたときはあいにくの雨となっていました。見学地の変更を検討いたしました。御参加の皆様強いご要望に従い、予定通り雨の中、石垣山城を見学いたしました。

秀吉公をはじめ戦国武将の逸話等を交えたボランティアガイドさんの詳しい説明を拝聴しながら、暫し戦国の世界に浸ることが出来ました。

昼食は「鈴廣」にて、焼き竹輪作りを体験した後、小田原産の金目の鯛飯で舌鼓、楽しい会食となりました。次の二宮尊徳記念館見学は中止しました。

帰りの車内では、自作の竹輪を話題にしながらかみ、お腹も大満足の楽しい親睦の旅となりました。



(和田悦男)

文学散歩

三田演説館

今年度の文学散歩コースの三田演説館は、慶応義塾校内にあります。福澤諭吉が建造し、開館は明治8年5月1日でした。演説は、明治6年に門下生が西洋のスピーチを研究して創始しました。「演説」という言葉も福澤の造語といわれています。その構えは木造瓦葺、洋風、床面積58坪余で、一部二階建てです。諭吉の私財、二千数百円を投じて造られたそうです。福澤諭吉はこれにつき、「無事に保存することを得ば、後五百年、一種の古跡として見物する人もある可し」と予見されています。その百数十年後に訪れるわれわれは、まさに「見物する人」の中の名誉ある一人であると思うのだが：

(参考「慶応義塾豆知識」)



三田演説館

(山田 治)

ゴルフクラブ

満開の桜の中のコンペを終えて

冬の寒さに閉ざされていた心や体を春の暖かさに誘われ、思いっきり動かしたくなる季節である。

第69回の柏樹会ゴルフコンペが満開の桜が咲き誇る栃木県の大平台カントリークラブで開催された。参加者は16名。平均年齢は70歳を超えている。常日頃より先輩方とのゴルフでは、その元気に感心しているところであるが、今回もまたまたその取り組む姿勢に敬服することになった。私は4組目のスタート。メンバーは三浦先生、原田先生、小林先生である。三浦先生は80歳をすでに超えておられる。原田先生は今年80歳を迎えられる。このコースは高低差が大きく、至る所が上り坂になっているので移動がきつい。ところがこの二人ときたら、何事もなくせつせときつい上り坂を歩いて行かれる。何回「カートに乗って下さい」と、声をかけたことだろう。平坦な道でも気をつけて歩かなければならない年齢なのに。いつも感心し驚かされる。

終わって「今日も楽しかったよ。ありがとう」と言われるあの元気さと健康に「自分も見習わなくては」と、思えばかりである。諸先輩を目標に、いつまでもゴルフが楽しめる健康を維持しなければと思う、今日この頃である。

(新納 豊)

盆栽教室

初信忘れず 「盆栽の手入れ」

昨年は、県退職校長会の日程の都合で、盆栽部の実技教室は、6月2日(日)、桐山氏宅、五葉松、参加者8名。観賞教室、10月13日(土)、緑化センター、参加者8名。参加が少なく残念であった。実技教室で学んだ中から、盆栽の手入れの基本について、あらためて記してみる。

○芽摘み：春芽吹いた新芽をやわらかいうちに元芽を少しだけ残し、先芽を摘み取る。

○剪定：鉢の大きさ、形に合わせて枝の輪郭を揃えたり、陽あたり、風通し、枝葉のバランスを整える。草木を形作る基本で最も大切である。

○植替：根の若返りを図るため古くなった土を新しい土に入れかえ、水、空気(酸素)の通りをよくする。

手元にある貧弱な一盆一樹の小品のみですが、「初心忘れることなく」大事に育てたいと思う。

(原田四郎)



盆栽展会場

写真クラブ

春の撮影会は旧岩崎邸庭園でした。

ボランティアガイドさんが邸内の説明をしてくれましたが、中は撮影禁止で残念！明治29年建築の洋館の前で集合写真をパチリ。ピンクの花越しに白い列柱が立ち並ぶベランダを一枚。青い空、白い洋館、緑の芝生、色とりどりの花。素敵な写真が撮れました。

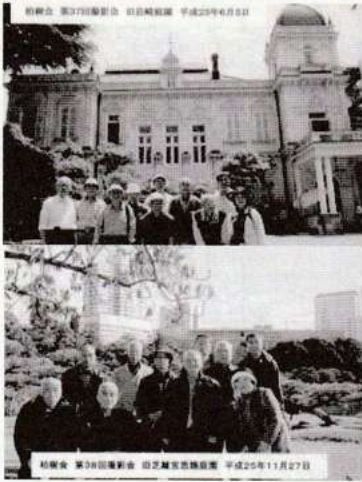
秋は旧芝離宮恩賜庭園に出かけました。回遊式水庭園で、水面に映っている東京タワーを入れて一枚。集合写真は背景にビルと紅葉の枝を入れてパチリ。十月桜が満開でした。

昼食は、いつものどを十分に潤しながら撮影談議に花が咲きます。

写真を持ち寄つての研究会は、同じ場所で撮影していても、カメラアングルが異なり、とても参考になります。

今年度は、赤塚植物園、井の頭恩賜公園を予定。是非、ご参加下さい。

(安部八千代)



釣りクラブ

「楽しい鯛食好釣会」

釣りクラブでは、鯛の船釣り、鰯の船釣り、旨い魚を食する会の3つの事業を行っています。昨年度は、天候不良により鯛釣りは中止となつてしまいました。他の2事業は多くの参加をいただき楽しい会となりました。

私事ですが、十数年ぶりに船釣りをしました。鹿浜橋から船で荒川を下り、東京湾川崎沖での鰯釣りでした。小ぶりの鰯でしたが、ポツリポツリと飽きない程度に釣れ、60匹釣り上げました。私の隣で釣っていたT氏は、30cmを超える黒鯛も釣り上げました。

その晩、我が家の食卓には鰯のお刺身と塩焼きが並びました。T氏の食卓には、黒鯛のお刺身が並び、美味しいお酒が飲めたのではないのでしょうか。

さて、釣りではオデコ(釣れないこと)で食べる魚が無いという事も有りますが、旨い魚を食する会では、船代よりも安い費用で美味しい魚が必ず食べられます。釣りに参加されなくても旨い魚を食する会に参加されることは大歓迎です。

本年度は、鯛の船釣り、若洲公園での防波堤釣り、旨い魚を食する会の3つの事業を計画しています。多くの皆様方の参加をいただき、楽しい時を共有できることを願っています。ついで

に大漁であれば文句無しです。

(江川 剛)

パソコンクラブに参加して

平成25年度からパソコンクラブに参加しました。会場は鳩ヶ谷の公共施設を利用してあります。月2回の勉強会は自分のパソコンを持参しています。

昨年度は、インターネットを利用するためにWIMAXをメンバーでお金を出し合つて借りました。

インターネットを使って地図の見方やホテルの予約の仕方、ネットショッピングの方法も学びました。

更に「青空文庫」では無料で読める本が一万冊以上もあると知り、興味が広がりました。

このように色々な世界が広がるパソコンの学習の指導をして下さっているのは、駒崎高造先生です。毎回、レジメを作つて下さり、きめ細やかな指導を頂きました。

年末には、「ハガキデザインキット」を使って年賀状作りに挑戦しました。絵やデザイン文字、挨拶文等たくさん例があり、私は十種近くの年賀状を作つて楽しみました。

今年度は、初心に返つてテキストを使って、パソコンの基礎から教えて頂くことになりました。興味のある方のご参加をお待ちしています。

(佐藤順子)

美術展の反省と今後の課題

柏樹会の美術展は、今年で9回目を迎えました。

今日に至るまでいろいろと修正し、ようやく定着して参りました。皆様のご協力の成果だと存じます。

しかし、昨年は出品者35人、出品数57点と、やゝ年々減少傾向にあり、少々危惧しているところです。その要因には退職後の就職や会員の高齢化、運搬の困難さ等々考えられますが、よい解決方法がございましたら御意見下さい。

さて、来年度は自分史、句集、詩集、紀行文、小説、エッセイ、ビデオ作品等等、気軽に出品していただきたい。こうして幅を広げ、沢山の方々の出品を期待しています。(小川吉之丞)



ライフスキル教育

自分に自信をもち、のびのびと健やかに生きることでできる児童の育成

川口市立芝中央小学校長

松本光男

本校は、平成24・25年度川口市教育委員会の委嘱を受け、研究を進めて参りました。その概要を以下に述べさせていただきます。

「ライフスキル」とは、一言でいうと日常生活で起こる様々な問題にうまく対応する『心の能力』です。

この「心の能力」は、以下の5つに分けられます。

- ① 意思決定スキル (自分の意思を決める力)
- ② コミュニケーションスキル (より良い人間関係を築く力)
- ③ 自尊感情形成スキル (自分に自信を持ち、人から認められていると思える力)
- ④ 目標設定スキル (目標を決める力)
- ⑤ ストレス対処スキル (障害対応力)

これらの力を、授業を通して身につけようとするのがライフスキル教育です。



これまで川口市では主に中学校で、保健体育、特別活動、総合的な学習の時間という教科・領域の中でライフスキル教育

を行ってきました。

しかし、本校は児童の発達段階を踏まえ、5つのスキル(能力)を育てるためには、どのような教材(能力)を育てるためにはどのような教材(プログラム)が適切であるかを考え、教科・領域を決めて授業を進めました。小学校では、前例のない取組のため、手探り状態の中ではありませんが、児童の実態を調査し、実際に授業研究をしていく中で研究の進むべき方向性が見えて参りました。

また、年間指導計画についても、研究を推進する中で、

- ① 発達段階によりどんなスキルをどのような教材で行うのか。
- ② 授業に関して教科・領域の配当時間数をどうするのか。

という点を明確にして参りました。2年間の授業実践を通して、次のこ

とが明らかになりました。

- ① 発問や指示・説明などを児童の発達段階に応じて、分かりやすいものに修正すれば十分授業が可能であり、効果も期待できる。これは、高学年だけではなく、中・低学年にもあてはまる。
- ② それぞれの授業で、子供の表情がとても豊かであり、微笑ましいものであった。(通常の学級経営も多分に影響しているものと考え)
- ③ 2年間の研究を通して児童の自尊感情の高まりが見られた。
1年目：77%
2年目：81% (+4%)

本校は、これまで行われていたライフスキルのプログラムや教材をそのまま追試するだけでなく、学年の発達段階を考慮し、それらを修正追試したり、独自の教材開発をしたりし、取り組んで参りました。



なお、低・中・高学年それぞれの授業実践並びに児童の変容等については、1月22日に川

口市内外に広く発表いたしました。当日は、100名を超える参観者が来校されると共に、公益財団法人日本学校保健会事務局長である並木茂夫先生に御講演を賜りました。

平成26年度は、児童の自尊感情を高めるために授業とライフスキル教育とを「車の両輪」と考え、研究をさらに充実させたいと考えております。

編集後記

6月。運動会は終わった頃でしょうか。最近では5月、6月に実施することが多くなっていると聞いております。

本会の各部の活動も始まりました。同じ趣味や同好の方との出会いや語りは、日常の生活に彩を添えてくれます。参加できる喜びは、現職中は味わうことのできなかつたものです。

「柏樹」発行も5年目を迎えました。年2回の発行とはいえ、多数の先生方の執筆をいただいております。現職中の実践談やご苦労談、あるいは現在の様子など、拝読させていただいております。

今後とも多彩な情報をいただきながら、「柏樹」を発行して参りたいと思っております。

(青木節子)

懇親会



新会員紹介



会長より受章者へ記念品贈呈



美術展



故 内田孝三先生 作品



来賓祝辞
大野光雄
中学校長会会長

